

# ドイツランツベルク市訪問

## ■ドイツランツベルク市へ

昨年10月15日から21日の4泊7日の日程でオーストリアのドイツランツベルク市を訪問しました。

ドイツランツベルク市は、オーストリア共和国シュタイアーマルク州にあり、州都グラーツからみて南側の隣国スロベニア共和国にほど近い人口1万2千人ほどの小都市です。

今回は羽田空港からドイツのミュンヘンを経由しグラーツへ、そこからドイツランツベルク市まで車で移動しました。本来ならば12時間ほどのフライトのフライトは、ロシア・ウクライナ紛争によりロシア上空を飛ばず北極圏をぐるりと大回りする経路だったために、15時間以上も椅子に座ってじっとしていなければならぬ正直大変なフライトとなりました。もつとも、帰路もトルコ上空から中央アジアを経由しながらの半日コースでしたので、極東に位置する日本はヨーロッパからみてやはり遠い異国の地「ジパング」なんだろうなと思いました。

## ■「百聞は一見に如かず」

ドイツランツベルク市での滞在は、ヴァルナー市長をはじめとする市関係者のみなさん、TDKのシュタールさんや上田さんなど、それ以外にもたくさんの方々に骨折りました。たいへん有意義なものとなりました。実際、ドイツランツベルク市とその周辺地域の歴史や文化、食や産業、自然景観といったあらゆることをギュッとまとめて体験するこ

とができ、ドイツランツベルク市を身近な存在と感じられるようになりまし

到着後すぐに、ドイツランツベルク市にあるTDK工場見学をしました。ここでは圧力・抵抗に関する電子デバイスの開発と生産をしているだけでなく、近隣のチェコやクロアチア、中国やマレーシアなどのアジア地域の工場をもサポートしているとのことで、ドイツランツベルク工場がTDKの世界戦略のなかで重要な役割を果たしていることをうかがい知ることができました。まさにグローバル企業としてのTDKを強く感じることができました。

話はそれますが、今回の私どもの訪問を知った駐オーストリア日本大使館職員の小松さんからほんのわずかでも日程に参加したいとの申し出があり、半日ばかりではありましたが情報交換をする機会をえました。大使館側の希望は現地のTDKとのコネクショングループでしたが、私たちにとつても新たな関係をつくることのできる良い機会となりました。

## ■訪問のきっかけと今後

今回のドイツランツベルク市訪問のきっかけはTDKからの提案でした。私見にはなりますが、グローバル企業としてのTDKが世界展開していくときに、特にEV(電気自動車)や生成AIの進展により電子部品デバイスの需要拡大が見込まれる中で、循環型を重視するヨーロッパの拠点であるドイツランツ

ベルク工場は今後ますます重要な役割を担っていくものと思われれます。このときに、ドイツランツベルク市にかほ市との間で友好連携がすすめば単に両市に与るのTDKの存在価値が高まっていくだけでなく、より広い範囲でその効果が波及していくことも十分に考えられます。その意味からも今回の件はTDK発祥の地であるにかほ市にとつても大切な意味をもつものだと思います。

ドイツランツベルク市、TDKそしてにかほ市による今後の取組みについては、まだこれから枠組みを決めていこうとしている段階です。ただ、ドイツランツベルク市の人口と財政規模はいずれも比較的小さく、また、山あいには豊かな水資源を有し、丘陵には風力発電施設が整備されているなど、自然景観的ににかほ市と似通っているところも多数あり、私たちと同じくらいの背丈の相手としてより良い関係性を築いていけるものと私は感じました。



にかほ市長  
**市川雄次**  
写真中央がヴァルナー市長、その右側がTDKのシュタールさん

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

